

三田評論

MITA HYORON
2018 1
No.1218

三田評論

2018

1
No.1218

新春対談

文化の創造・発信拠点としての慶應義塾

慶應義塾

新春対談

文化の創造・発信拠点としての慶應義塾



慶應義塾

巻頭隨筆
丘の上池田潔先生と米津昭子先生との想い出
日本人とオーボエ、その歴史が語るもの
老年老い易く学成り難し

野口英世、黄熱病研究から百年

加藤千麿

成澤良一

速水融

山本厚子

8 7 5 4

新春対談
**文化の創造・発信拠点としての
慶應義塾**

茂木友三郎
長谷山 彰

10

演説館

さまよえる個人蔵書

紀田順一郎

28

写真に見る
戦後の義塾

幼稚舎創立80周年

鈴木雅晴

33

話題の人

アジア選手権で見せた慶應野球 石井章夫さん 佐藤旭さん インタビュー 後藤寿彦

河内恵子

36

義塾を
訪れた外国人

第22回 カズオ・イシグロ

50

福澤諭吉をめぐる人々 その20

ドクトルチャンブルスとドクトルジョンソン 山内慶太

46

三人闇談 少数言語を旅する

佐藤歩武／井上逸兵／藤田 譲

50

少數言語を旅する

(少數言語との関わり)

井上 今回はいわゆる「少數言語」がテーマですが、大学書林さんは、日本人にあまり馴染みのない言語も多く扱っている貴重な語学書の出版社としてよく知られています。

佐藤 大学書林は私の家業で、祖父が昭和四年に創業しました。現在父が社長を務めていますが、おかげさまで創業八十九年目です。世界の百十三の言語を出版させていただいている語学専門出版社として、小さい頃から父、祖父の背中を見てまいり

ました。ですから少數言語の本にも家の中で触れるという環境でした。当社は創業以来、世界の言語に関する辞典、文法書、会話書、単語集、対訳書などを出版、一貫して語学書のみに専念しております。ご指摘のようにイディッシュ語、ウルドゥー語、スロヴェニア語、ロマンシュ語、カザフ語、アルメニア語、ハウサ語、シユグニー語など馴染みのない言語に囲まれながらという感じです。

井上 藤田さんはアンデス地域の言語がご専門ですね。

藤田 ええ、特にペルーやボリビアといふ地域の言語を専門として、少數言語の本にも家の中で触れるという環境でした。当社は創業以来、世界の言語に関する辞典、文法書、会話書、単語集、対訳書などを出版、一貫して語学書のみに専念しております。ご指摘のようにイディッシュ語、ウルドゥー語、スロヴェニア語、ロマンシュ語、カザフ語、アルメニア語、ハウサ語、シユグニー語など馴染みのない言語に囲まれながらという感じです。

地域研究は、その社会で人々が話している言葉をまずは話せるようにならないといけません。特に南米のアンデスの国々はケチュア語、あるいはアイマラ語といった、もともと先住民の人々が多く住んでいる地域なので、スペイン語を話す人でも、かなり多くの人がケチュア語あるいはアイマラ語といったもう一つの言

佐藤 いのうえ いづか
井上 ふじた うえ いづか
逸兵 ひき 兵 あゆ
護 まもる



佐藤歩武 株式会社大学書林取締役。1990年慶應義塾大学経済学部卒業。大日本印刷勤務を経て、祖父が昭和4年に創業した世界113の言語の出版を行う語学専門出版社である大学書林の現職。



井上逸兵 慶應義塾大学文学部教授、NPO法人地球ことば村・世界言語博物館理事長。専門は英語学・社会言語学。著書に『グローバルコミュニケーションのための英語学概論』ほか。



藤田謙 慶應義塾大学環境情報学部専任講師。東京大学大学院総合研究科地域文化研究専攻単位取得退学。専門はアンデス人類学、およびアイヌ語とアイヌ語口承文学。

語を話している。すると、やはり話せるようにならないと人々の世界に入つていけないことがあります。ペルーやボリビアを対象地域とする研究者は、私ぐらいの世代から、かなり多くがケチュア語やアイマラ語を勉強し始めました。佐藤 アイヌ語も学ばれているのですよ。

藤田 日本に戻ってきたとき、アイヌ語の研究をされている中川裕さんという千葉大の先生のことを知りました。それでアイヌ語を勉強しに行きながら、その大学院生の研究を

語を話している。すると、やはり話せるようにならないと人々の世界に入つていけないことがあります。ペルーやボリビアを対象地域とする研究者は、私ぐらいの世代から、かなり多くがケチュア語やアイマラ語を勉強し始めました。

参考にして、自分もアンデスの研究を博士課程でやるようになつたわけです。

井上

私は専門が英語学、社会言語学なのですが、少数言語との関わり

す。

藤田 井上さんは「地球ことば村・世界言語博物館」の理事長も務めていらっしゃいますね。

井上

これはNPO法人で、藤田さんがアイヌ語を学ばれた中川さんの

として、例えばアメリカは完全に英語が国の中でも先住民の小さな言語を消滅させてしまっていますね。日本語とアイヌ語の関係もそうだと思います。ですが、その一方で、例えばアフリカなどだと英語がいわゆる公用語になつていて、小さな言語もある意味保たれている。英語が世界中で他のいろいろな言語はどう関わつて

いるかというところに関心があります。

藤田 井上さんは「地球ことば村・世界言語博物館」の理事長も務めていらっしゃいますね。

井上 これはNPO法人で、藤田さんがアイヌ語を学ばれた中川さんの先輩に、千葉大の金子享先生という方がいらっしゃいました。もうお亡くなりになつたのですが、その方が残された部分も大きなウエイトを占めるウェブサイトなんですね。

「博物館」という名前なので、夏休みの終わり頃になると子どもたち

が「そこに行きたいんですけど、どこにあるんですか」とよくお問い合わせいただきます。でもこれはネット上にしかない、架空博物館です(笑)。

サイトを私が直接つくったわけではなく、金子先生やいろんな言語を専門にしている方々に書いていただいているものからできています。毎月、三田キャンパスでサロンと称して、いろいろな言語の研究者や大学院レベルの若い方などにお越しいただき、お話を伺っています。

アンデス地域の言語

井上 藤田さんがアイマラ語、ケチュア語と最初に出会ったときの印象はどんなものでしたか。

藤田 最初はそもそもスペイン語が話せるようになることで精いっぱいでした。

現地で調査する場合、われわれは向こうの人々とほとんど生活をともにするような形で行います。そうす

ると、普段町内で人々と話すぶんにはスペイン語でも十分に通じます。が、村で一日の農作業を終えて家族が戻ってきて、あたりが真っ暗になるところだけケロシンランプをともして、薄暗いなか家族みんなでしばらく話している。ペルーでの体験ですが、そういうときはやはりスペイン語ではなくて、ケチュア語を使ってみんなで話しているわけです。

家族という親密な空間のなかで、

もう一つ別の言語を使って人々が大事なことを話しているんだと感じたことは、その言語を勉強しなければいけないと思つた大きなきっかけでした。

佐藤 どんな言語だと感じましたか。

藤田 最初はもちろん、何を聞いても全く意味の分からない音の羅列にしか過ぎません。ただ、ケチュア語のほうは子音の後に母音が来ることが多いのに對し、アイマラ語は子音が多くの話し者があります。

が連続することがあつて、多いときは四つ、五つの子音が連続します。ですから、ケチュア語のほうが柔らかく、アイマラ語のほうがとがつて聞こえると現地の人々はよく言います。私自身はあまりそのように思つたことはありませんが、聞こえると現地の人々はよく言います。私は、その二つ以外にもたくさんあるのでしょうか。

藤田 私はアンデスの山の、標高三千メートルを超えるようなところの町や村に普段出かけていますが、そこは今、話されている言語の数はそ

れほど多くありません。

もともと言語の多様性は、アマゾニアを中心とした標高の低い熱帯のほうに集中しています。ただし、例えケチュア語は、それ自体が一つの言語ではないと今では考えられるようになつています。そのさまざまなかつて、全部合わせて九百万人ぐらい話し者がいます。

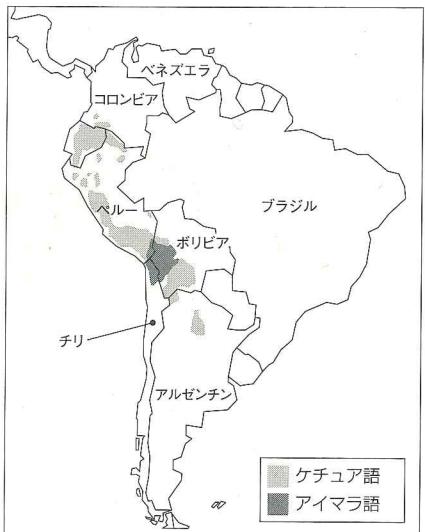
佐藤 アイマラ語はどのくらいの話

者がいるのでしょうか。

藤田 二百万人ほどで、これも南アメリカ大陸では話者数が多いほうです。

アイマラ語と同系統の、より古い形をとどめていると考えられているハカル語という言語があります。これは、ペルーの首都リマの近郊の山地で、話者は千人を切っています。

アイマラ語を話す人やケチュア語を話す人は、かなり最近になつてア



ケチュア語、アイマラ語の分布

人々がその言語をアイデンティティを感じるとして、親から子どものへの継承も改めて行われるようになりました。言語によつては村人たちが専門のラジオ局も持つようになつたり、もう一回活力を取り戻しつつあります。

人々がその言語をアイデンティティを感じるとして、親から子

どものへの継承も改めて行われるようになつました。言語によつては村人たちが専門のラジオ局も持つようになつたり、もう一回活力を取り戻しつつあります。

井上 ボリビアの公用語はスペイン語だけではないのですよね。

藤田 今ではアマゾニアの低地も含めて、三十五の言語が全て公用語だということになつています。

井上 政府とか政治のレベルはスペイン語？

藤田 基本的には事実上スペイン語が優勢なのですが、できるだけ先住民言語にさまざまな文書を翻訳すべ

ンデス全域に広がったと考えられていますが、より古くからアンデス高地に暮らしていたウルと呼ばれる人々が話すボリビアのウルチパヤ語

も、千五百人ぐらい話者がいる。世紀の終わりくらいから実は持ち直

しているんです。

藤田 それらの話者数がだいぶ少ない言語は、もう絶滅するだけではないかと思われていたのですが、二十

世紀の終わりくらいから実は持ち直

しているんです。

井上 ボリビアの公用語はスペイン語だけではないのですよね。

藤田 今ではアマゾニアの低地も含めて、三十五の言語が全て公用語だということになつています。

井上 政府とか政治のレベルはスペ

共通語、公用語

きだとされていて、公務員も、スペ

イン語と、自分が勤務する地域の先住民言語を運用できることが義務と

して定められています。

井上 なるほど。国語という概念はなかなか難しいですね。公用語に等しいような意味で国語と呼ぶ場合もあれば、この国で話されている全部を国語、と呼ぶ場合もある。

私がやっているNPO法人の前の理事長の阿部年晴先生は、アフリカの人類学の研究者で、アフリカもういうところが多いという話を聞きました。部族間の言語があつて、共通語があつて、その上に英語やフランス語などの公用語がある。三層構造みたいになっているところが結構あるそうです。

佐藤 アイマラ語を日本で研究している人というのはどのぐらいいるんでしょう。

藤田 ケチュア語のほうが話者数が多くて、日本でも研究している言語学者がいます。アイマラ語になると

なかなか難しくて、逆に世界中で何

人研究者がいるだろうか、というレ

ベルです。

アメリカでも、アイマラ語の社会言語学で一人、私の同世代の研究者はいます。あと、オランダ人でアイマラ語の文法で最近博論を書いた人がいる。ほぼ全員が把握できてしまふくらいの人数です。

多様な言語学書を出版

佐藤 私どもは出版社ですので、あくまで黒子役として本を世に出す手助けをさせていただいている立場ですが、そういういろいろな言語についてご執筆をいただける研究者を探すというのが、実際は一番大変な仕事です。信頼に足る優れた研究者を見つけられるかどうかというのを見出している人にとってはどのくらいいるんでしょう。

井上 現在百十三の言語について出版されているということですが、世界の言語数からするとまだ少ない、

ということでしょうか。

佐藤 そうですね、ほんのひと握りです。言語数は考え方によつていろ

いろ異なりますが、いずれにしても当社が出している百十三というのは本当に微々たるもので、まだまだ当社がやらないといけない言語の出版がいる。ほぼ全員が把握できてしまふくらいの人数です。

二〇一六年、東ヒマラヤにあるブ

ータンという多言語国家の国語で、ゾンカ語の単語集を日本で初めて出しました。国と言語の名前が一致しないケースですね。

井上 数年前、この三田にもブータンの国王とお妃さまがいらっしゃいましたね。

佐藤 そうですね。国民総幸福量(GNH)という概念を提唱されておられましたが、その概念の柱の一つになつていると思いますね。

井上 現在百十三の言語について出

版されているということですが、世界の言語数からするとまだ少ない、

ブータンの国をまとめるアイデンティティとして、ゾンカ語を使おうという動きがあるようです。

井上 言語数については、Ethnologue (<https://www.ethnologue.com/>) というサイトでは、だいたい七千ぐらいと書かれています。

でも、百十三というと、そんなに学んでいる人が多くない言語も多くあるわけですよね。

佐藤 そうですね。世界には本当にたくさんの言語があって、そのような多様な言語があることをまず知つてもらいたい。言語は文化とイコールだと言われたり、文化を構成する一つの大きな要素と言われたりもしますが、言語を勉強することによって、世界のさまざまな文化に触れて、世界のさまざまな文化に触れたいといふことも当社の大きな主眼です。

当社のような出版をしていて、「儲かりますか」とよく聞かれます。これは正直言いまして、商売としてはなかなか厳しい。

井上 でも佐藤さんまで三代も続いているいらっしゃるわけで（笑）。

佐藤 もちろん英語やドイツ語、フ

ランス語など学習者の多い言語の本も出させていただいているので、それとあわせて何とかやつていて、るという感じです。やはり特殊な言語だけで採算を取るというのは非常に難しいですね。でもどこかの出版社がやらないといけないことだと思います。

井上 素晴らしいことだと思いま

す。

佐藤 ありがとうございます。最近の話ですが、国賓として来日された

ルクセンブルクのアンリ大公を歓迎する宮中晩餐会に、当社の『ルクセンブルク語入門』の著者である田原憲和先生が招待され、この本の影響の大きさを実感したとおっしゃって

おられました。ルクセンブルク語は人口約六十万人の小国ルクセンブルクの国語ですが、実用範囲の低い少數言語で、そういう言語の研究者

が評価されたのは出版社としても大変うれしく励みになることです。

また、昨年、ウクライナのボロシ

エンコ大統領が来日された際、同国の聖オリガ公妃勲章が当社のウクライナ語の対訳書『シェフチエンコ詩選』の著者、藤井悦子先生に授与されました。ウクライナ近代文学の父であるシェフチエンコの作品をウクライナ語を通して日本で出版したことが評価されたとのことでした。これららの言語があるということ 자체、日本ではあまり知られていませんので、当社の出版を通して知つていただけたら嬉しいですね。

（東京でアイマラ語を学ぶ）

井上 藤田さんはアイマラ語の勉強には、どのような教材を使われていますか。

藤田 基本的には、スペイン語を通じて現地で教えてもらうかたちになります。ただケチュア語であれ、アイマラ語であれ、最近は英語でもい

くつか重要な教材が出てくるようになりました。一九六〇～七〇年代にアメリカのいくつかの大学が大型の研究費を取つて、母語話者を招聘し文法書と教科書、問題集、教師向けのガイドブックなどをつくるかなり大掛かりなプロジェクトが走っていました。

最近は日本でも若い言語学者の人々が南米、中米の先住民言語のフードワークをしに出かけていくようになっていますが、日本でこの地域の言語を勉強するのは依然としてハードルが高いかもしれません。

アイマラ語については、PARC（アジア太平洋資料センター）というNGOが東京にあって、そこの「自由学校」で、一昨年と去年の二年間、アイマラ語の講座という市民講座を行いました。

そうすると、受講生が十人前後集まるんです。ギリギリですが開講できること数が集まる。私もそんなことは全く予期しなくて、どうせ成立し

ないだろうと思つていたら、なんと二年連続して成立してしまった。

井上 それはすごいですね。皆さんどんな動機で学びに来るのですか。

藤田 例えば、アンデス地域のfolkloreの音楽は日本人にもファンが多いですから、自分が歌つている歌詞の意味を知りたいといった関心もあります。

あるいは現地に駐在したことがあります。暮らしていたことがある方などですね。また、言語自体にそもそも関心がある方もいました。東京だけでも十人ぐらいは毎年コンスタントに受講生が来る、というのは新鮮な発見で、やつてみるものだなと感じました。

佐藤 うれしい驚きですね。語学出版社としても希望を感じるお話をです（笑）。

井上 世の中の外国语学習はビジネス向けの英語が主流ですが、そういうところとはちょっと違う「言語」に目を向けるようとする人たちもいるといふことですね。ビジネス上の目的ではなくて、興味のあることを学びたいと。

藤田 先ほどお名前が出た千葉大学にいらっしゃった金子亨さんが書いた『先住民族言語のために』（草風館）を読んでいると、複数のレベルで「言語」について考えることができるのではないか。グローバルな意味での共通語、ある国家で生きていくときには必要とされる言語。そして、それとは別に、地域の中で人々が大事にしている言語もある。

いくつもの層があつて、そこで必要とされる言語が変わってくるということだとと思うのです。世界中で複数の言語を使い分けながら生きていくことは、決して特殊なことではなく、普通に生きている人々が日々やつてていることです。これが理解されて、研究者ではない一般の人たちにも、そのように複数の言葉で人とつながろうという考え方人が増えてくれるといふことを思っています。

(日本語に近いアイマラ語)

藤田 アイマラ語は、接尾辞をひたすら単語の後ろに付けていくという意味では、助動詞と助詞を使う日本語と非常によく似ています。しかし日本語のような、漢字を組み合わせて熟語でいろいろ表現していくという手段はなく、接尾辞だけで全てを表現し分ける。ですから、日本語より接尾辞の組み合わせがはるかに複雑に発達した言語です。日本語とよく似ている面があるので、日本人が学ぶにはアイマラ語は相性がいいのかかもしれません。

井上 スペイン語よりは日本語に近いかもしだれない。

藤田 そうですね。一方で、アイマラ語は一人称、二人称、三人称以外にも、もう一つ、一人称複数の「わたしたち」について、話している相手が含まれるか含まれないかという区別を厳密に行います。アイマラ語の文法では「話し手を含むわたした

ち」を伝統的に四人称と呼んでいます。相手を含めるかどうかについては英語では区別しないので、とても面白いですね。

藤田 アイス語でも、この四人称という体系が文法的に存在しています。

実は、私もアイマラ語の先生に、「アイマラ語に四人称があるからには日本語にも四人称があるだろう」と言われたんです。「いや、ない」と答えたたら、「そんなことはない、よく探していい」と妙な宿題を出されました(笑)。それで「アイス語にはあるらしいですよ」と答えたら、

つまり、その結び目を文字のようなもの、広い意味で「書き記されたもの」として考えて、どのようなシステムを持っているのかを明らかにすることで、小・中学校の国語教育に生かせるのではないかという研究が、アンデスでも進められています。

佐藤 アイマラ語ではラテン文字を使っていますが、アイマラ語ではラテン文字を植民地時代、つまり十六世紀にスペイン人が先住民言語を記述しようと試みを始めたので、すでに五百年以上、アルファベットで表記をしようとしてきた歴史があります。また最近は、広い意味で「文字」の概念を拡張していこうという動きがあります。例えば、アンデスでは繩にそろばんの珠のようないい結び目をつくって、その結び目の色や形、位置などで物事を表現するということがされてきました。

もともとは統計を記録するためのものだったのでですが、それだけではなく、歴史や神話を記録することもできたのではないかと言われています。

複言語使用の現状

井上 デイヴィッド・クリスタルといふイギリスの言語学者によると、世界中の三分の一ぐらいの人たちは二言語を使っていると言っています。日本はそうでもないですが、現地の言語と英語の併用状況がある国は世界にいろいろな例があります。そういう状況では、英語にいわゆる土着の色が付いてくる。

例えばシンガポールのようなどころだと、教育レベルが高度な人たちばかりで、英米的な英語に近い英語を話す。一方で、町場に行くと本当にシンプルな英語です。そういうことが、世界のいろいろなところで起こっていると思います。

ブレグジット (Brexit) で、イギリスがEUを出た後に、英語がEUの言語であり続けるのかどうかなども結構話題になつたりします。その一方で、「ユーロイングリッシュ」と言つて、EUの会議場で使われて

いる英語も、いわゆる標準的な英語から離れて慣用化されていることがあります。だから、イギリスがいてもいなくともあまり関係ないのではないか。これもある意味で二言語を使っていると言つていま

す。日本はそうでもないですが、現地の言語と英語の併用状況がある国は世界にいろいろな例があります。

藤田 今、井上さんが言われたことは、スペイン語でも起きています。スペイン語とアメリカ大陸の先住民言語は、もう五百年以上接触を続けています。もともとスペイン語しか話さない層の人たちも、先住民言語の言葉を単語として取り込むことはしてきたのですが、先住民言語とスペイン語のバイリンガルの人たちは語順を変えたり、教科書のスペイン語とは少し違う動詞の活用の使い方をするなど、文法としても先住民言語にもう少し近くなつたようなスペイン語を使っています。

井上 なるほど、スペイン語が橋渡しの役割になる。

藤田 ただ、やはりスペイン語は非常に勢力が強いので、モノリンガル（先住民言語のみを話す人）はどんどん減っています。今ではアンデスでは八十代以上のおじいさん、おばあさんの世代にしか、モノリンガルはほぼ見つからない。しかも、先住民言語とスペイン語のバイリンガルの層も、徐々にスペイン語のモノリンガルに移行しつつあります。

アンデスではまだ人口が大幅に増え続けているので、絶対数としてのアイマラ語の話者も増え続いているのですが、徐々にスペイン語話者の比重が高くなつてきているという状況に

先住民言語との接触で変化してきましたスペイン語の研究も、スペイン語学の一つの分野として認めよう、そ

変わりはないです。

そういう中で、いわゆる「アンデスのスペイン語」が安定した言語として続いているのか、先住民言語がこれからも話者数を保ち続けられるのかは、いまだに予断を許さない状況です。

そもそも、より低地の言語では、話者数が十人とか十五人という言語がいくつもあります。そういう言語はもう消滅するのではないかと多くの専門家が言っていますね。

井上 学者によつて違いますが、百万人いないと維持できないという学者もいますし、三十万から五十万ぐらゐで維持できると言つている学者もいます。でも、十五人というのは危機と言つてもいい状況ですね。だいたい世界の言語は七千と言われていますが、平均すると一言語あたりの話者数はたぶん八十万人ぐらい。けれども、中央値は七千ぐらいです。つまり、話者数が十万人以下の言語がたくさんある。いま話者数

では中国語、英語、ヒンディー語、スペイン語という順番で、日本語は九番目ぐらいですが、上位八位まで

の言語で世界の人口の四〇%ぐらいを占めています。圧倒的多数が世界トップ10の言語を話していて、しかもトップ10の中にはインドの言葉が三つぐらい入っています。また、中國語というまとまりも言語学的にはかなり難しい。「中国語」は一つの共通語であり、公用語ですね。

佐藤 インドの言語ではヒンディー語の他にマラーティー語も多いですね。ムンバイを中心に行なわれている言語です。あと、テルグ語は三年ぐらゐ前に、当社から初めて出版させていただきましたが、話者約八千五百万で、これもトップ15には間違いないなく入つてくる。でも、日本人でテルグ語という言語があることを知っている人も少ないと想ります。

ただ、インドの方々は英語を流暢にしゃべりますし、テルグ語を母語としている人は、IT関係の仕事の

方が多く、日本にも数多く来ていましたね。

（） 少数言語を保存する

藤田 大学書林さんはアイヌ語についても、佐藤知己先生の『アイヌ語文法の基礎』を出されていますね。

佐藤ええ、北海道大学の。

藤田 この本は、白沢ナベさんという19歳のおばあちゃんのアイヌ語をベースにした文法書です。アイヌ語も、少なくとも研究者が把握している範囲では、日常生活でほとんど使われることがなくなつてしまいましました。ただ、周りの人たちがアイヌ語で会話をしていたという時代のことを感じている人たちが、今はまだある程度私よりも若干年上の世代で何人も残っています。また、自分でアイヌ語を後から勉強して身に付けた私の同世代や少し年上の方々には、やはり自分の子どもにアイヌ語を教えておこうという方もいらっしゃいます。

自分がある程度話せれば、子どもに對して話すこともできるわけで、今までアイヌ語で生活が送れるかという試みも行われています。あるいは、ご年配のおばあちゃんたちで、それほど流暢にアイヌ語で会話をすることがなくとも、例えば不完全な表記で筆記されたアイヌ語の單語を見ただけで、完全な發音でアイヌ語を読む方もいる。それが自分の言語なんだ、自分の言語となるはずだつたんだと思っている限り、さまざまなかたちでその言語を続けていくうござまざまな形でその言語を続けるものなのだと思ひます。

井上 例えば東大の角田太作さんといふ方は、オーストラリアのアボリジニの研究をなさつていて、その言語は話者がいなくなつたのですが、その言葉を復活したいという動きが地域で起つて、角田先生がいろいろな資料を持つてそこに行かれて、復興活動に寄与されたりしている。

ですから、大学書林さんのお仕事もすごく価値があるわけで、いろいろな研究者が資料や図書を残しておこうことで、予想しなかつたようなニアーズが未来にあるかもしれないし、実際にそういうことが今起こっているように思います。

今は英語が世界のグローバル言語であり、英語中心の世界観で世の中が回つてているところがありますが、これからどんどんふうに変わっていくことは分からぬ。例えば数百年後、

かならないといけないと思つています。
井上 名誉教授の鈴木孝夫先生がよくおっしゃっていますが、英語の時代はもう終わりつつあって、例えば「もつたいない」のような英語になり概念が、次の時代では意味を持つようになるということですね。

(一) 大学で少數言語を学ぶ

佐藤 SFCではアイヌ語の授業もされていらっしゃいますね。

藤田 はい、スペイン語圏に関する研究会とともに、アイヌ語とアイヌ語の口承文学から世界観を学ぶという研究会をつくりました。

学生が来るのだろうかと心配していたら、これがSFCの面白いところで、年によつてはスペイン語圏の研究会を上回るぐらいの学生数が来てます。東京でも、アイヌ語を勉強できる大学というのはあまりないし、教えられる人もそれほど多いわけではありません。アイマラ語の自由学校の話とも重なりますが、これ



12月号

トコインの相場は一五〇万円とか。なぜ、こんな仮想通貨の価格がかくも上昇するのか。株価が上がる、国債の価格が上昇することと現象的には同じであっても、株や国債は現物を手にすることはできるが、ビットコインにはそうした性質はない、唯々デイスプレイ上に映し出される数字でしかない。しかし、このビットコイン、歴とした投資対象の金融商品なのだ。最近「フィンテック」という言葉で表

だけ関心がある人がいるのかとちょつとびっくりしています。

井上 学生さんはどんな関心で来るのですか。

藤田 アイヌ語やアイヌ語の口承文學そのものに関心を持つ人もいれば、もう少し民俗学的な関心、例えれば出身地方の方言でお年寄りの人たちの伝承を記録してそれについて考へたいなど、さまざまな関心を持つた学生が集まっています。

ちなみに、これは大学書林ではないのですが、白水社に『ニューエクスプレス アイヌ語』という中川裕

さんが書かれた教科書があつて、それを教科書に指定したところ、先日白水社の人から「SFCで急にまとまつた数卖れたので何が起つたのかとびっくりしたら、そういうことでしたか」という連絡をいただきました。

佐藤 その気持ち、よく分かります（笑）。そういう言語が学べるというのは大変素晴らしい環境ですね。

藤田 SFCでは他にも、同僚のスペイン語の教員は、実はバスク語のネイティブスピーカーです。また、

井上 今、小さな大学はどんどん外国語科目の数を減らしていく、英語と中国語しかない、みたいな大学もいっぱいありますからね。慶應には西脇順三郎、井筒俊彦以来の言語研究の伝統があるわけですから、そういった世界の多様な言語についてこれからも積極的に取り組んでいきたいですね。

象される金融取引の新たな分野の展開とともに大いに関係し、経済学の新たな研究課題の一つにさえなりつつある。とはいって、この課題、果たして現代の経済的厚生に何ほどの貢献をなし得るというのだろうか。

先号の論説によれば、ビットコインは、通常の財取引の決済手段として使われつあるとか。「通貨」の性質上この傾向は排除できないからう。しかしこうなつてきたときの通貨の「値打ち」とは何なのだろう。（飯田裕康）